

公開シンポジウム 概要報告

企画委員長 中道貞子

2022年10月22日(土)、エッサム神田ホール2号館を会場にして開催した公開シンポジウムが無事終了いたしました。ご登壇者の皆さま、対面およびオンラインでご参加いただいた皆さま、当日のお世話をしてくださった実行委員の皆さまのおかげで、充実した会になりましたこと、心より感謝申し上げます。詳細については3月に発行予定の「報告書」をご覧くださいたく存じますが、まずは、概要報告を致します。

当日の参加者は登壇者を含めて、対面参加46名、オンライン参加44名、合計90名でした。そのうち、大学女性協会会員は82名、一般参加者は4名、学生は4名でした。会員は、札幌支部から長崎支部まで15支部からの参加がありました。また、事後アンケートには57名の方に回答いただきました。

◆登壇者の講演概要

基調講演「ケアしあう社会をつくる」 静岡県立大学国際関係学部教授 津富宏

1. ケアを奪われた私たち 社会的排除の時代、生きづらさの時代
2. ケアを社会の中心に置く 『ケア宣言』
3. ケアしあうコミュニティをつくる
社会的包摂概念のつくり替え 大学での取り組み 地域での取り組み
4. ケアしあうまちをつくる ミュニシパリズム 杉並区でも
5. ケアしあう経済をつくる 社会的連帯経済 南欧やラテンアメリカを中心に
6. ケアしあう社会をつくる 身近なところからはじめよう

パネリストの発表1「安心して私生活と両立できる研究環境とは」

総合地球環境学研究所 京都気候変動適応センター研究員(京都支部) 一原雅子

1. 現在の活動内容
 - (1) 京都気候変動適応センターでの業務
 - (2) 母としての日々
2. 現代社会が抱えている問題 一人の女性研究者として見えてくるもの
 - (1) 研究界では
 - (2) 育児・家庭生活面では
3. 自分にとっての課題
 - (1) 優先順位と切り替え
 - (2) 状況のポジティブな意味づけ
4. 研究環境に求めること：次世代の研究者のために
 - (1) 評価軸の多様化
 - (2) 寛容な研究環境

パネリストの発表2「次世代のためにできること～教育と研究～」

駿河台大学法学部助教(東京支部) 宮下摩維子

1. 次世代のために大学教員としてできること
 - (1) ジェンダーの視点を女子学生のみならず、男子学生にも持たせる試み
 - (2) 比較法的視点を取り入れ、視野を広げさせる試み
2. 研究者として次世代の未来に資する研究を
 - (1) 私たちの足元に存在する貧困問題
 - (2) 養育費の取り立て制度の現状
 - (3) 諸外国の取り組み

パネリストの発表3「誰もが学び続けるために～私たちの活動報告～」

静岡県立大学看護学部2年生 「学生助けたいんじゃー」メンバー 佐藤美帆
 静岡県立大学国際関係学部3年生 「学生助けたいんじゃー」メンバー 松浦旦周

1. 今、大学にはどんな学生がいるのだろうか
2. 学生助けたいんじゃー&たべものカフェの取り組み・見えてきたこと
 取組んでいること(主な活動)
 - (1) 学生の貧困の実態把握(県大生を対象に、昨年9月から現在も継続中)
 - (2) 情報発信
 - (3) 政策に反映する
3. 今後、私たちはどう取り組んでいくのか
 - (1) 学生の貧困支援体制の確立
 - (2) 学生の適応状況の集中的把握
 - (3) CSW(キャンパスソーシャルワーカー)の導入

◆事後アンケートに寄せられたコメントからの紹介

基調講演について：

- *今の日本社会の閉塞感(社会的排除、中産階級の凋落、生きづらい)を変える為のツールをいただきました。
- *当事者と支援者を切り分けず、境界線をひき直すなど、支援活動で陥りがちな支援者と被支援側の上下関係をどうくずすかに大いにヒントを得ました。

パネルディスカッションについて：

- *研究の場、大学でのとりくみ等、現代の課題が見えたと思います。相対的貧困、ジェンダー、人間に対するあたたかく、やさしい眼差しを基本においた議論になったと思います。
- *それぞれのお立場でご提案いただきよい刺激となりました。制度ができてそれが根付く風土をどのように育てていくか、これからの課題です。だれもが働きやすい、生きやすい風土を大学女性協会から発信できるようにしたいものです。
- *若い方々の発表はそれぞれ深刻な問題点を紹介していて、考えさせられました。ぜひここから前進してよりよい社会に向かえるよう、大学女性協会も助力できるとよいと思いました。

対面とZoomによるウェビナーとのハイブリッド形式による開催についてもいろいろな意見がありました。再検討し、次年度の全国セミナーにつなげていきたいと思っています。